

# ハイライトよねやま 170

(財)ロータリー米山記念奨学会  
2009年4月13日発行

## 1 寄付金速報 — 2008-09年度もあと3カ月 —

3月までの寄付金は、前年同期と比べて7.26%増、約8,800万円増となりました。普通寄付金が0.96%減、特別寄付金が11.63%増と好調を維持しています。

「2008-2009年度 普通寄付金のお願い」を3月11日付で約150のロータリークラブ会長宛にお送りしましたが、4月10日現在、まだ71のクラブから納められておりません。普通寄付金は当奨学会の安定財源となっています。普通寄付金をご送金されていないクラブはお早めに納入いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 2 中国に学友会が誕生！

今や国籍別の米山奨学生数および学友数のトップを占める中国。国情から正式なロータリークラブも認められておらず、米山学友会の設立も長年検討されながら実現に至っていませんでした。

しかし、このたびついに、中国在住の学友が力を合わせて「米山記念奨学会中国学友会」を発足。その設立総会が3月28日に北京市内のホテルで開催され、中国全土および日本から87名の学友が駆けつけ、盛大に執り行われました。

初代会長には、中国学友会華北分会会長の姫軍さん（1995-97／東京臨海RC）が、副会長には同上海分会会長の張晋岩さん（1993-95／鈴鹿西RC）がそれぞれ選任されました。奨学会を代表して出席した板橋敏雄理事長は、次のように語っています。



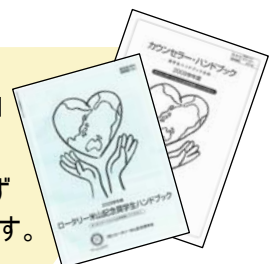
このたび私は米山記念奨学会中国学友会成立総会に出席し、生涯忘れえぬ深い感動を味わうことができました。その第一の理由は、この記念すべき中国学友会の成立総会に、北京、上海をはじめ、内モンゴルや海南島、そして日本から、なんと90名近い学友が駆けつけてくれた事です。第二の感動は、北京で開催されたこの総会が、私たち奨学会関係者を除く全員が中国人であるにもかかわらず、最初から最後まで、すべて日本語で進められた事です。そして第三の感動は、この中国学友会が単なる親睦の会ではないということです。初代会長となった姫軍氏はスピーチの中でこうおっしゃいました。「中国学友会の設立は私たち中国学友の夢でした。この夢をかたちにしたのは、全員に共通する感謝の気持ちです。今、中国で日本を最もよく知っているのは我々をおいてほかにいません。我々の知っている日本を次世代に伝え、今後の日中友好関係を発展させることが我々の大きな目的です」。私は感動に震えながら、中国学友会の皆さん一人ひとりの気持ちを日本のロータリアンに伝えなければならないと心に誓いました。（理事長 板橋敏雄）



## 奨学生／カウンセラーハンドブックができました

【奨学生ハンドブック】今年度からの変更点がいくつかあります。新規奨学生には合格通知と共に大学経由で、継続奨学生へは世話クラブを通じて渡されます。

【カウンセラー・ハンドブック】初めてカウンセラーをされる方も、すでに経験されている方も必ずお読みください。カウンセラーの役割や体験談に基づいたQ&Aが満載。クラブへ送付済みです。



### 3 現職の駐日韓国大使は米山学友

昨年4月に第18代駐日韓国全権大使に就任したクォンチョルヒョン 權哲賢氏は、筑波大学大学院博士課程在学中の3年間(1984~87年)を米山記念奨学生として過ごしました。帰国後は東亜大学教授などを務め、96年から国会議員に3回連続当選。大統領選では李明博イミョンバク氏の補佐官を務め、李政権誕生を機に、駐日韓国大使に任命されました。近年の韓国政界では数少ない知日派の1人として知られています。

權大使は世話クラブの佐野東RC(第2550地区)との交流を続けており、昨年7月にはクラブの例会を訪れ、10月には会員を大使公邸での晩餐会に招待。また、3月17日には、李東建RI会長や日本の歴代RI理事、佐野東RCの元会員や親交のある韓国出身のロータリアンを大使公邸での晩餐会に招き、日本のロータリーへの感謝を述べられました。学友の駐日韓国大使は、第14代の崔相龍氏に次いで2人目です。



晩餐会にて。權大使は左から2人目

### 4 「日本陶芸展」入選に輝く — 米山学友 張 義明さん —

和歌山県龍神村で活躍する陶芸家の張チャン イーミン 義明さん(台湾/1997-99/和歌山大学大学院/和歌山城南RC)から、また嬉しいニュースが届きました。毎日新聞社主催の「日本陶芸展」に応募し、見事入選を果たしたとのこと。実力日本一の陶芸家を選定することをコンセプトにした同展にはトップレベルの作品が寄せられ、公募展の中では「最も狭き門」と言われています。4月9日に東京・大手町で開催された授賞式に出席した張さんは、今回の入選について、「昔から憧れていた展覧会で、今でも夢のよう。しかし、これはゴールではなくスタート。良い意味でのプレッシャーに変えて、初心を忘れずに、さらに喜びと感動を与えられる作品を生みだしていきたい」と語っています。第20回日本陶芸展は、下記の日程で東京・大阪・茨城で展覧会が開かれ、張さんの入選作品「心眼」も展示されます。お近くの方は、ぜひ足をお運びください。



張さんと入選作品

#### <第20回日本陶芸展>

東京展：2009年4月9日(木)~20日(月) 大丸ミュージアム・東京(大丸東京店10階)

大阪展：2009年5月14日(木)~18日(月) 大丸ミュージアム・心斎橋(大丸心斎橋店本館7階)

茨城展：2009年7月11日(土)~9月6日(日) 茨城県陶芸美術館(笠間市 笠間芸術の森公園内)

### 5 東京マラソンの給水ボランティア — 第2750地区 —

約3万人のランナーが参加する国内最大規模のマラソン大会、「東京マラソン2009」が3月22日に開催され、第2750地区の米山奨学生と学友8人が給水ボランティアとして参加しました。当日は早朝からロータリアンと共に水の運搬、テーブル設営などを手際よくこなし、ランナー一人ひとりに「頑張って」と声をかけながら、次々と水を手渡しました。参加した米山奨学生らは、「目の前を駆け抜けるランナーに圧倒された」「水を受け取ってくれたランナーから“ありがとう”とっていただき、やりがいを感じた」と、目を輝かせました。参加を呼びかけた同地区米山記念奨学委員長の関博子氏も、「毎年の行事にしていきたい」と手応えを語りました。



(財)ロータリー米山記念奨学会  
〒105-0011 東京都港区芝公園 2-6-15  
黒龍芝公園ビル 3F

Tel : 03-3434-8681 Fax : 03-3578-8281  
E-mail : highlight@rotary-yoneyama.or.jp  
URL : http://www.rotary-yoneyama.or.jp/  
編集担当：野津・峯・大庭